

# One And Only

～ 思 い 出 す 敬 の 心 ～

## 授業の概要 3年 教材「独りを慎む」

向田邦子のエッセイです。実家を出て、アパートで一人暮らしを始めた筆者は、家族の視線がなくなって、急激に行儀が悪くなっている自分に気付きました。人がいないとたかが緩んでしまう癖があることを自覚していた筆者は、自分の現状に危機感を覚え始めます。“誰が見ていなくても、独りでいても、慎むべきものは慎まなくてはならない。”自身を「転がりかけた石」という筆者の心に、「独りを慎む」という言葉がしみわたります。どうしてこのような心構えが大切なのか、考えていく教材です。

## 生徒の感想

- ・価値観は人によって違うので、気にしなくても良いと思った。
- ・主人公が「精神の問題だ」と言っていて、自分もなんとなくわかる気がしました。「独りだからまあいいか」と思ってしまう気持ち的な問題があるから行儀が悪くなるのかなと思いました。
- ・この登場人物は理想の姿になるため、今の自分を行儀という視点から見つめ直しているように思った。見られていないときでも行儀良く過ごせるように考えているところを見習いたい。
- ・私はこの授業で自分のことを振り返ることができました。今は家族がいるのである程度整えているけど、もし一人で住むと片付けをしないようになってしまうかもしれません。なので、今から整えておこうと思いました。
- ・人の前で自分をよく見せていても一人の時にその行動ができないと意味が無いと思った。一人の時に出てくる行動こそが本来の自分であると思う。
- ・誰も見ていなくても、神様はいつでも見ていると思う。私も誰も見ていないからと惑わされることがあるけど、悪い行動に流されないようにしたい。行儀ができていないと、常識も守れないと思う。



## 授業の概要 2年 教材「自分を考えよう—道徳の時間とは—（教科書「自分を考える2）」「答えのない道徳の問題 どう解く?（ポプラ社）」

道徳の授業を受けるときに大切なこと6つを教科書で確認しました。①自分の考えをもち、それを伝えるとともに、他者の考えを聞き、自分とは異なる意見も受け入れる。②間違いを恐れず、主体的・積極的に関わる。③道徳的な良さや課題、問題点を見つける。④様々な考え方に触れ、多面的・多角的に考える。⑤もう一度、自分の考えを見つめ直す。⑥書くことを通して、自分の生き方についての考えを深める。

ポプラ社「答えのない道徳の問題 どう解く?」を使って、これまであまり考えたことのないような課題について考え、話し合いました。課題には、「どうして勉強しなきゃいけないの?」「ついていい嘘とついていけない嘘は、どう違うの?」「どうして正義のヒーローは、悪者を殴っていいの?」などがあります。

## 生徒の感想

- ・普段気にしていないようなことでもよく考えてみたり、違う方向から見たりすることで新たな疑問が生まれるのだと思った。自分なりの答えをもつことや、他の人の意見を聴き、心にとどめておくことが自分自身の成長につながるということがわかった。
- ・やっぱりまだまだ解決していないことがたくさんあると思う。そういうことを少しでも解決するために道徳の授業があるのだと思った。道徳の授業は永遠に変わらないと思っています。
- ・みんなの意見を聞いて、自分の意見もより一層深くなったと思います。班のテーマである「戦争」をウクライナとロシアに重ねて考えたので少し難しかったです。
- ・日常で当たり前のことを今日は勉強したので、当たり前のことでも「考え」たらいろんな意見が見つかるからおもしろかったです。日常で「これが当たり前だ」と思っても考えてみればいい答えが見つかるかもしれないと思いました。
- ・「どう解く?」で、ほとんどの課題がわからない中、本気で考えたら頭が疲れた。いろんな考えがあったり、どう考えても答えが出てこない問題もあったりして、意外とおもしろかった。僕は「考える」ことが苦手だからこれからも道徳で「考える」を頑張っていこうと思った。教科書にもおもしろそうなものがあったので、読んでみたいと思った。

## 授業の概要 1年 教材「フィリピンの子どもたち」～宮内先生のお話～

## 生徒の感想

・私が住んでいる日本では、学校で勉強する子どもたちが多くいけど、フィリピンの中の地域では学校に行けない、学校に行けないから勉強の内容がわからない子どもたちが多くいるというのが分かり、学校に行って勉強できるのが当たり前と思わず、1日1日を大事にしたいです。フィリピンでは、国民の4分の1は貧しくて、家族のために子どもたちが働いていることを知り、びっくりしました。また、路上で生活している子どもたちが居ることを知り、そのような生活をしている子どもたちを減らすため、何か協力できることがあれば、協力したいです。

・私は初めてスラム街の話詳しく聞き、世界には同じ国の中でも生活の仕方がこんなにもちがう国が存在するんだなと思いました。食べ物もなく、自分だけのことを考えるだけでは生きていけないなんて考えられません。豊かな場所では、家もあって、学校にも通えてと、私たちと変わらないと思っていました。私は正直勉強が嫌いでしたが、このような話を聞いて、勉強ができることが当たり前ではないということに改めて実感しました。私もいつかこのような方たちのために、力をかすことのできる人間になりたいなと思いました。

・世界には十分にご飯を食べられていなかったり、勉強を納得できるまでできなかったりする子どもたちがたくさんいることに改めて気づかされました。だから食べ物を粗末にせず、食べ残しや、好き嫌いもなるべく減らしていきたいと思いました。また、のびのびと勉強ができるこの環境に感謝して、これから勉強をしていきたいです。そして、こんな状況に立っているにもかかわらず、困っている人に食べ物を分けるなどの行動ができるフィリピンの方たちは、すごく心が広くて、優しい人なんだと思いました。私もそんな優しい人になりたいです。また、機会があればフィリピンに行って、フィリピンの郷土料理や果物を食べたいです。

・「私は本当に幸せ者だ。」と実感しました。スラム街の子どもの話、私の想像を絶するものでした。おいしいご飯が当たり前のようであって、きれいな服も、安全な環境も、十分な愛も全て与えられて生きてきました。こんなに幸せな環境に生きてきてこれは当たり前ではないのだと気づかされました。辛いことがあってもいつも優しい心を持っている子どもたちが救われるよう、幸せな未来が来るよう、なにか助けになれるようなことがないか考えています。私の将来の夢はスクールカウンセラーです。救える子どもたちは少ないかも知れませんが、救えるよう努力していきたいです。

き り と り

保護者の皆様

道德通信を読んだ感想があれば、担任までご提出をお願いします。次号への掲載をさせて頂く場合があります。カラー版をHPに掲載しておりますのでそちらもぜひご覧下さい。